

大曲厚生医療センター

医師卒後臨床研修プログラム

2023年4月

はじめに

医学は、二十一世紀を迎えてますます発展を続けている。生命現象や、生体反応の解明が進み、診断、治療および予防医学も著しく進歩し、変化してきた。遺伝子レベルまで理解を深く掘り下げてきた医学は、遺伝子工学の進歩と相まって、遺伝子診断、遺伝子治療へと突き進み、さらに時代は、臓器移植という新しい領域を求めている。その急激な変化について行くために、初期研修医のみならず、先輩医師や指導医にとっても厳しい学習が課せられている。

この医師を取り巻く医療背景の中、最も必要と思われるのは、「良識のある良質の臨床医を育てること」と考えられる。臨床医として最も優先すべきこと、最も大切に尊いこと、それは患者のベッドサイドに立ち患者を診るということであり、このことの確認が初期臨床研修の段階で、しっかりなされる必要がある。患者が何かを訴えた時、患者のベッドサイドには行かずデータを見る。検査指示を次々と出す。そしてハンドブックにそった対症療法の指示を出す。学会発表になりそうな患者は診たがるが、ありふれた疾患の患者は診たがらない。このような医師が輩出されることがあってはならない。

患者のベッドサイドに立って患者の訴えを聞き、診察することを何よりも尊いとする確認が必要であるし、そのことを最も大切に感じる感性が染み付いた良質な臨床医が必要とされている。医師としての生きざまは卒後の数年間が大切であり、その後が変わるためには本人も指導者もそれまでの何倍もの努力を必要とする。初期臨床研修の大切さと、責任の重さを感じながら本プログラムを作成した。

プログラム責任者
内科 仁村 隆

大曲厚生医療センターの使命

『病める人々の信頼にたる病院たらん』

大曲厚生医療センター 基本理念

私たちは、安全で質の高い
患者様本位の医療を提供し
信頼される病院を目指します。

大曲厚生医療センター 基本方針

1. 常に医療の質の向上と安全な医療の推進に努め、広く医療従事者の育成を行ないます。
2. 患者様の権利と意思を尊重し、十分な説明と同意に基づく医療を提供します。
3. 地位の医療・保健・福祉施設と緊密に連携し、地域医療の充実に努めます。

大曲厚生医療センターの患者様の権利

患者様の立場にたった医療を提供するため、以下の権利を尊重します。

1. 人格を尊重されて、丁寧で思いやりのある医療を受ける権利
2. 良質で安全な医療を公平に受ける権利
3. 医療の情報や説明を理解した上で、治療方法を自己決定できる権利
4. 診療に関する情報などのプライバシーを保護される権利
5. セカンドオピニオン（別の医師の意見）を求める権利

目 次

表 紙	1 枚目
はじめに	2 枚目
大曲厚生医療センターの使命・基本理念・基本方針・患者様の権利	3 枚目
目次	4 枚目
令和3年度 卒後臨床研修概要	1 頁～2 頁
I プログラムの名称	3 頁～10 頁
II プログラムの目的と特徴	
III 病院の概要	
IV 指導者	
V プログラムの管理運営	
VI 研修医定員	
VII 教育課程(カリキュラム)	
VIII 研修評価(評価表)	
IX プログラム終了の認定	
X プログラム終了後のコース	
XI 研修医の処遇	
XII 応募要領と応募手続き	
* 研修申込書・履歴書〔当院様式〕	
* 「大曲厚生医療センター 臨床研修管理委員会規程」	11 頁～12 頁
臨床研修管理委員会名簿、初期研修委員会名簿	13 頁～14 頁
(別添1) 臨床研修の到達目標	1 頁～13 頁
〔救急研修〕 参考資料	1 頁～11 頁

2023年度 卒後臨床研修概要

- ・募集；2022年7月より8月上旬、面接試験；8月中旬から数回実施(予備日、個々に調整可)
- ・マッチングにて採用、研修開始〔2023年4月1日付、常勤職員〕
- ・基幹型で実施（協力病院・施設施設は別記）
- ・プログラム名称及び定員

大曲厚生医療センター 卒後臨床研修プログラム 8名

大曲厚生医療センター 卒後臨床研修プログラム 基幹型病院名 大曲厚生医療センター

- * 内科24週：一般内科・循環器科・消化器科
基幹型病院・平鹿総合病院・秋田県赤十字血液センターで研修する。
救急部門16週：救急4週、麻酔科4週と8週相当の救急当直(さらに自由選択で救急4～8週)基幹型病院・東京ベイ浦安市川医療センターで研修する。
- 必須分野各4週：外科・小児科・産婦人科・精神科
外科・小児科・産婦人科は基幹型病院・JA秋田厚生連協力病院で研修する。
(外科は呼吸器外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科からも選択可)
精神科は協和病院、市立大曲病院、秋田県立リハビリテーション・精神医療センターで研修する。
- 地域医療4～8週：研修施設は別記（在宅診療含む）
- 一般外来研修4週：内科、小児科（各2週）
- 以上、「1年次後半から2年次8週相当の救急当直」は必須とする。

* 研修プログラム例

1 年 目	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
	内科(一般内科・循環器科・消化器科)						救急		外科・小児科・産婦人科・精神科				
2 年 目	1～ 4週	5～ 8週	9～ 12週	13～ 16週	17～ 20週	21～ 24週	25～ 28週	29～ 32週	33～ 36週	37～ 40週	41～ 44週	45～ 48週	49～ 52週
	地域 医療	一般 外来 研修	自由選択(別記) 8週相当の救急当直										

- * 自由選択の研修分野
大曲厚生医療センター……（基幹型）
内科（一般内科・循環器科・消化器科）・小児科・外科・呼吸器外科・整形外科・脳神経外科
泌尿器科・産婦人科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・眼科・皮膚科・病理診断・救急
秋田県赤十字血液センター……（協力施設） 内科（一般内科(血液)12週以内）
平鹿総合病院……（協力病院） 内科（一般内科・循環器科・消化器科）
東京ベイ・浦安市川医療センター（協力病院） 救急
湖東厚生病院・市立田沢湖病院・羽後町立羽後病院・かづの厚生病院・北秋田市民病院・能代厚生医療センター・秋田厚生医療センター・由利組合総合病院・平鹿総合病院・雄勝中央病院
市立角館総合病院（協力病院）
山下医院・木村内科医院・大曲こどもクリニック・小山田医院・生和堂医院……（協力施設）
地域医療（必修と合せて12週以内）
能代厚生医療センター・かづの厚生病院・秋田厚生医療センター・由利組合総合病院・平鹿総合病院・雄勝中央病院……（協力病院） 外科・麻酔科・小児科・産婦人科
協和病院・市立大曲病院・秋田県立リハビリテーション・精神医療センター……（協病院） 精神科
- ※ 2年間を通じ、基幹型病院（大曲厚生医療センター）で32週以上の研修を実施する。
尚、到達目標に未達がある場合は、到達目標達成に必要な診療科を割り当てることある。
CPCは基幹型病院（大曲厚生医療センター）で開催
- ※ 研修医の同一診療科への集中を避けるため、上記プログラム例の研修順序は研修医により異なる。

*研修プログラム責任者（副）

プログラム名	定員	責任者および副責任者名
大曲厚生医療センター 卒後臨床研修プログラム	8名	責任者：仁村 隆（内科、副院長） 副責任者：小野文徳（外科、副院長） 副責任者：中川 拓（呼吸器外科、診療科）

*協力型病院

診療科	病院名	診療科	病院名
精神科	協和病院（大仙市） 市立大曲病院（大仙市） <small>秋田県立リハビリテーション・精神医療センター（大仙市）</small>	地域医療	湖東厚生病院（八郎潟町） 市立田沢湖病院（仙北市） かづの厚生病院（鹿角市） 北秋田市民病院（北秋田市） 能代厚生医療センター（能代市） 秋田厚生医療センター（秋田市） 由利組合総合病院（由利本荘市） 平鹿総合病院（横手市） 雄勝中央病院（湯沢市） 羽後町立羽後病院（羽後町） 市立角館総合病院（仙北市）
救急	東京ベイ・浦安市川医療センター（浦安市）		
内科 （一般内科・ 循環器科・ 消化器科）	平鹿総合病院（横手市）		
外科 麻酔科 小児科 産婦人科	かづの厚生病院（鹿角市） 能代厚生医療センター（能代市） 秋田厚生医療センター（秋田市） 由利組合総合病院（由利本荘市） 平鹿総合病院（横手市） 雄勝中央病院（湯沢市）		
	秋田大学医学部附属病院		
	リハビリテーション科 <small>秋田県立リハビリテーション・精神医療センター（大仙市）</small>		
	皮膚科・ 眼科・ 放射線科・病 理診断科・心 臓血管外科・ 乳腺外科・耳 鼻咽喉科・麻 酔科・小児 科・産婦人科		

*協力施設

診療科	施設名	診療科	施設名
一般内科 （血液）	秋田県赤十字血液センター （秋田市）	地域医療	山下医院（大仙市） 木村内科医院（大仙市） 大曲こどもクリニック（大仙市） 小山田医院（大仙市） 生和堂医院（大仙市）

大曲厚生医療センター 医師卒後臨床研修プログラム

I.プログラムの名称

- ・大曲厚生医療センター 卒後臨床研修プログラム

II.プログラムの目的と特徴

臨床医を育成するための2年間の卒後初期研修プログラム。一年次研修では急性期疾患のプライマリケア・救急に重点を置き、将来の進路にかかわらず、すべての臨床医に必要とされる基礎的能力の獲得を目的としている。二年次研修では将来の専攻志望科を中心にさらに診療能力を拡大するものである。

III.病院の概要

当病院は昭和9年、秋田県大曲市で地域農民の医療機関として仙北医療購買利用組合病院として開院した。昭和18年秋田県農業会を経て、昭和23年秋田県厚生農業協同組合連合会(厚生連)へ移管された。昭和33年火災により全焼したが、昭和34年鉄筋コンクリート造2階建診療棟5階建病棟の近代的病院として再建、以後も診療棟・病棟の増改築を繰り返し今日に至っている。当病院は秋田県の県南部に位置し(以下、旧市町村)大曲市を中心に協和町、西仙北町、神岡町、南外村、仙北町、角館町、田沢湖町、西木村、六郷町、太田町、千畑町、中仙町、仙南村という広域な仙北郡の地域中核病院として機能している。急性期医療を基軸に、保健・医療・福祉と全般にわたる総合医療体制の確立を目指している。

*市町村合併

大仙市(旧大曲市、旧協和町、旧西仙北町、旧神岡町、旧南外村、旧仙北町、旧太田町、旧中仙町)

仙北市(旧角館町、旧西木村、旧田沢湖町)

美郷町(旧六郷町、旧千畑町、旧仙南村)

*名称 大曲厚生医療センター

*所在地 〒014-0027 秋田県大仙市大曲通町8番65号

TEL (0187)63-2111 FAX (0187)63-5406

*病床数437床〔一般433床,感染4床〕

*診療科(標榜科)

内科(血液・腎)、内科(呼吸器・アレルギー)、内科(循環器科)、内科(消化器科)、糖尿病内科
小児科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科

眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、病理診断科、脳神経内科
合計 21科

*医学会における認定教育施設状況

- 日本内科学会内科専門医教育関連病院
- 日本整形外科学会認定医制度研修施設
- 日本泌尿器科学会専門医研修施設
- 日本血液学会認定医制度研修施設
- 日本外科学会認定医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医制度修練施設
- 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設
- 日本脳卒中学会専門医研修教育病院
- 日本周産期・新生児医学会認定研修施設
- 日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設
- 日本産婦人科学会認定医制度卒後研修指導施設
- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- 日本透析医学会認定教育関連施設
- 日本麻酔学会麻酔指導病院
- 日本ペインクリニック学会指定研修施設
- 日本がん治療認定機構研修施設

IV.指導者

- *プログラム責任者 仁村 隆(内科)
 *プログラム副責任者 小野 文徳(外科)、中川 拓(呼吸器外科)

- *各科指導医：氏名前に〔◎〕印は、研修管理委員長研修受講済
 〔○〕印は、指導医講習受講済
 〔※〕印は、プログラム責任者養成講習受講済

(1) 内科 (血液内科)	◎○※仁村 隆、○渡部 敦、 面川 進〔秋田県赤十字血液センター〕
(2) 循環器科	○田村 善一、○高橋陽一郎、小野 優斗
(3) 消化器科	○※三浦 雅人、○沖口 将夫、○眞坂 智寛、○小野地 研吾
(4) 脳神経内科	○鎌田 幸子、市川 大
(5) 精神科	○関根 篤、○三島 由美子〔協和病院〕 ○大谷 和生〔市立大曲病院〕
(6) 小児科	○大村 映子、小山 千嘉子、桜庭 聡美
(7) 外科	◎○小野 文徳、○荒木 孝明、○小村 俊博、○平嶋 倫亮 ○佐藤 圭佑
(8) 呼吸器外科	○※中川 拓、○工藤 智司、○鈴木 洋平
(9) 整形外科	○阿部 利樹、○嘉川 貴之、○飯田 純平、○赤川 学、○岩本 陽輔、○高橋 眞
(10) 脳神経外科	○※柳澤 俊晴、○大前 智也、○工藤 絵里奈、○畠山 潤也
(11) 泌尿器科	○熊澤 光明、○神崎 正俊、○灘岡 純一
(12) 産婦人科	○佐藤 敏治、○長尾 大輔、和賀 正人
(13) 耳鼻咽喉科	○垂石 羊司、○浅香 力
(14) 麻酔科	○大高 公成、○菅沼 紘平、○浅香 ナカリン
(15) 緩和ケア科	○大嶋 重敏、○秋山 博実
(16) 救急部門	(○大高 公成)ほか、別紙医局救急部
(17) 地域医療ほか	協力病院(実施責任者) かつの厚生病院(○笹生 昌之)・北秋田市民病院(○野口 博生)・ 能代厚生医療センター(○久保田 均)・雄勝中央病院(○小松田 敦) 秋田厚生医療センター(○畑澤 千秋)・由利組合総合病院(○西成民夫) 平鹿総合病院(○伏見 悦子)・協和病院(○関根 篤)・ 市立田沢湖病院(○星野 良平)・市立大曲病院(○大谷 和生)・ 東京ベイ・浦安市川医療センター(○神山潤)・市立角館総合病院(○伊藤良生) 羽後町立羽後病院(○鎌田 敦志)・湖東厚生病院(○波多野 善明) 協力施設(実施責任者) 秋田県赤十字血液センター(面川 進)・ 山下医院(山下 榮敏) 木村内科医院(木村 靖和)・大曲こどもクリニック(深谷 博志) 小山田医院(小山田 雍)・生和堂医院(伊藤 晴通)

V.プログラムの管理運営

臨床研修管理委員会規程【資料2】に則して行う。毎年度、研修医の到達度、各科指導責任者による研修医評価、研修医によるプログラム評価をもとに、委員会がプログラムを修正する。プログラムは小冊子として公表し、研修医、研修希望者に配布する。

VI.研修医定員

	1年次	2年次
大曲厚生医療センター 卒後臨床研修プログラム	8名	8名

〔未定〕

VII.教育課程(カリキュラム)

卒後1年次研修では、プライマリケアを中心に、幅広い領域を経験し修得する必要がある。医師が狭い領域にしか関心を示さないと、当直医として種々のプロブレムに関わったり、救急の場面で初期対応に携わったり、主治医として患者の全体に関わる場合に支障をきたすことから、当院の研修では、将来の進路に関わらず臨床医に必要なとされる、救急や蘇生を含めた幅広い領域のプライマリケアの修得を優先するとともに、患者のすべての医学的プロブレムを発見し対処出来るよう教育している。このため、ローテート研修方式を採用している。また、当直での救急診療研修も重視し必須としている。

全人的医療を研修することで、慢性疾患や終末期医療での適切な対応や、医師としての人格形成が期待できる。また、併設の居宅介護支援事業所、訪問看護ステーションを利用し、福祉と連携も行える。チーム医療の重視や地域診療所との連携推進も習慣化し得る。そして研修全体を通じて、問題解決能力・判断力が培われ、医師としての力を自力で向上させることができる能力と方法を修得できるよう、臨床研修を方向づけている。

(1)時間割

①オリエンテーション

4月1日付で採用。採用直後の4月前半に、安全管理、感染対策、病院機構、各種コメディカルの業務内容、医療保険の仕組みなど(看護部実習、検査科実習、薬剤科実習等や各科救急の講義・実習)のオリエンテーションを行う。

②一年次ローテート

内科24週・救急8週・外科、小児科、産婦人科、精神科各4週

順番は研修医の要望、人数により調整する。また、感染対策や予防医療等の研修も行う。

③二年次ローテート

地域医療4週・一般外来研修4週(内科、小児科)、自由選択44週のローテートで、内科、循環器科、消化器科、小児科、外科整形外科、脳外科、麻酔科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科など、将来の志望科および関連科を中心にローテートするプログラム。この場合も研修医がローテート科で重複しないよう順番を調整する。

さらに、8週相当の救急当直(または4週の救急研修)は必修とする。

④一年次当直

10月より上級医と組み、月2回程度。全科にわたる救急診療を研修する。

⑤二年次当直

当直は月3～4回程度で、全科にわたる救急診療を研修する。

(2) 研修内容と到達目標

病棟研修を主体とする。常時5名程度の入院患者を上級医とともに受け持つ。研修医は主治医のひとりとして患者のすべてに関わる。研修医は受け持った入院患者全員について、当院の「入院診療録」担当患者サマリーを記載、ファイリングし、これを「初期研修委員会」に提出する。委員会は、受け持ち症例に偏りがいないか、「研修症例ファイル」を随時点検し、別に定める「臨床研修の到達目標」について、ローテート毎に達成の確認、指導をする。二年次終了時点では、全研修分野の【資料1】を達成する。また、救急研修については、別紙（医局救急部門作成資料）を参考する。

(3) 勤務時間・休憩・休日

勤務時間

平日8:30～17:00(休憩60分) 緊急呼出(時間外)勤務有り

休日

日曜、国民の祝日に関する法律で定めた休日、及び12月30日、12月31日、1月2日、1月3日

特別休日

毎週土曜日、8月14日、その他会が別に定める日

(4) 教育関連行事

①地域医師会関連勉強会

大曲仙北医師会・消化器勉強会：年6回

大曲仙北医師会・超音波勉強会：年6回

大曲仙北医師会・内科勉強会：年1～2回

大曲仙北医師会・病院呼吸器内科病診連携症例検討会:年3回

(5) 指導体制

受け持ち入院患者の診療実践を通して、もう1人の主治医である上級医、または指導医から直接指導を受ける。さらにローテート各科の指導責任者が統括指導する。

VII. 研修評価

1. 臨床研修においては「臨床研修の到達目標」を達成することが一義的な目標となる。

研修の効果を高め、また、目標の達成を適切に判断するために、研修医を評価すると同時に、指導医をも評価し、お互いが適度な緊張感をもちながら、よりよい研修システムの改善を図る。

1) 研修医の評価

研修の評価にあたっては、EPOC（オンライン研修評価システム）を利用する。EPOCでの評価入力は各診療科の研修を終えた翌月までに入力する。（原則2ヶ月毎）

2) 指導医・指導体制に関する評価

研修医に対する一方的な評価のみではなく、研修医が指導医の評価を行い、お互いに適度の緊張感をもち卒後臨床研修体制の改善につなげる。ここでもEPOCを利用した評価体制とする。

2. 研修医評価の組織

従来から研修の場においては、日常的に指導医による研修医の評価、指導医間での研修医の目標達成状況・指導方法についての意見交換を随時行ってきた。これに加え「初期研修委員会」を要項に従い開催する。ここで各科指導医から報告される研修医の状況について検討し、研修内容の調整等を行う。また、毎年度末には2年間の研修期間が修了する研修医について「臨床研修管理委員会」で修了認定の可否について判断を行い、ここで修了の判断がされた者について、病院管理者は臨床研修修了証を交付する。

3. 日常の研修における評価

日常の研修の場面における、指導医からの指示、注意、コメント等が研修医へのフィードバックとなる。

また、一ローテーションの修了時など研修の節目においては、研修医の状況を指導医が「初期研修委員会」に報告し、そこでの評価結果は、その場で研修医にフィードバックされるとともに研修指導内容に反映され研修の効果を上げることが期待される。

1) 臨床能力の評価

「臨床研修の到達目標」について、EPOCを用いて、研修医及び指導医がそれぞれ研修医の目標達成状況をチェックすることにより、研修医の取り組み意欲が増すとともに、研修や経験の不足している領域が明らかとなり、効果的・効率的な研修の実施が期待される。

2) 情意面の評価

研修医の行動、態度、マナー、意欲等を含む情意面の育成は、臨床研修の大きな目標の一つである。これらの領域の評価は必ずしも容易なものではないが、EPOCを用いて研修医及び指導医がそれぞれチェックをする。

3) 診療録の評価

診療録は個々の症例の問題をどのようにとらえ、どのように対処しようとしたかの記録である。また、共用の医療情報として活用することにより、学術的な資料・医療の質的向上の資料となるものである。

4) 発表の評価

研修医は症例検討会の院内の教育行事に積極的に参加し、症例提示の発表を行うことが望まれる。このような発表は、適切にまとめ分かりやすく説明するというコミュニケーション能力とともに、医学的な思考能力を向上させる機会となる。

5) 経験記録

臨床研修においては幅広い診療能力の養成を目的としており、特定の領域に偏らない幅広い疾患等を経験することが求められる。

このため研修医自身が次の記録を作成し、適宜、指導医のチェックを受ける。

- ・到達目標の必須レポート
- ・CPCレポート
- ・症例検討会(発表・レポート)

Ⅷ. プログラム修了の認定

二年次研修終了時点での「臨床研修管理委員会」の総合評価およびプログラム修了認定に基づき、病院長は「秋田県厚生農業協同組合連合会 大曲厚生医療センター 修了証書」を研修医に授与する。

Ⅹ. プログラム終了後のコース

希望により引き続き後期臨床研修を続けるため、常勤医員として勤務も可能であり、志望各科の学会認定・専門医の取得をめざす。

XI. 研修医の処遇

(1) 身分

常勤職員

(2) 給与、賞与

1年次 月額給与(税込) 499,800円、年額賞与(税込) 754,834円

2年次 月額給与(税込) 531,400円、年額賞与(税込) 1,250,400円

他に当直手当、緊急呼出(時間外)手当等有り

(3) 勤務時間・休憩・休日・当直

勤務時間 平日8:30~17:00(休憩60分) 緊急呼出(時間外)勤務有り

休日 日曜、国民の祝日に関する法律で定めた休日、及び12月30日・31日、
1月2日、3日

特別休暇 8月14日、毎週土曜日、その他会が別に定める日

夏期休暇 1.5日(7~9月)

当直 1年次:10月より月2回程度、2年次:月3回程度

【重複就業〔アルバイト〕は禁止する】

当直明け休み有り

(4) 宿舎・研修医室

単身用〔病院負担〕、世帯用〔若干の自己負担〕有り

各自専用デスク(医局内)及び専用研修医室有り

(5) 社会保険・労働保険

健康保険・厚生年金・雇用保険に加入、労災保険適用

(6) 健康管理

健康診断、年2回

(7) 医師賠償責任保険

病院にて加入、個人加入は任意

(8) 学会、研修会

参加可、旅費あり

XII. 応募要領と応募手続き

(1) 募集方法

公募

(2) 応募必要書類

履歴書・卒業(見込み)証明書・研修申込書(当院様式)

(3) 選考方法

面接(病院見学必須)

(4) 募集及び選考の時期

募集時期 7月1日頃から

選考時期 8月15日頃から

ホームページ参照

<http://www.senbokukumiai-hp.gr.jp/>

※病院見学申し込み

e-mail

info@okmc.jp

記載事項

・大学名、年次、氏名、見学日程、見学希望科等

* 宿泊(無料)可(医局学生当直室あり^⑧又はホテル)、前後泊・食事については連絡調整する。